

あなたの相談に専門医がお答えします

健康相談室

耳鼻咽喉科



回答者

笠井耳鼻咽喉科クリニック・
自由が丘診療室(東京都)院長
笠井 創

スギ花粉症で症状が辛い。 病院の治療薬について知りたい

50歳、女性。2年前からスギ花粉症にかかったようで、春先にくしゃみ、目のかゆみ、鼻づまりがおこります。今までは市販薬を使っていたのですが、症状を抑えきれないときがあったので、今年は病院の治療を受けようと考えています。受診をする場合、治療のタイミングや処方される薬など、花粉症の治療について教えてください。(長野県 S)

抗ヒスタミン薬の内服や舌下免疫療法など。 時期や症状によって治療も異なるので医師に相談を

花粉症の治療には根治療法と対症療法があります。根治療法としては、まずスギの花粉を完全に除去あるいは回避することですが、これは現実にはなかなか難しいことです。

抗原特異的免疫療法(減感作療法)は根本的にアレルギーを治せる可能性のある治療法です。以前から注射では行われていましたが、新しい免疫療法として花粉のエキスによる舌下免疫療法が昨年より保険適用されました。この治療法は、花粉症の症状が出ているときに治療を始めると副反応が強くなることがあるため、花粉が飛び始める2カ月以上前から治療を始めます。また、少なくとも2年以上毎日継続する必要があります。

対症療法としては、抗ヒスタミン薬、抗ロイコトリエン薬、化学伝達物質遊離抑制薬などの内服や点鼻薬、点眼薬、そして鼻噴霧用ステロイド薬や点眼ステロイド薬による、全身療法と局所療法があります。

くしゃみ、鼻汁が主な症状の場合は、第二世代抗ヒスタミン薬、化学伝達物質遊離抑制薬が、鼻づまりが症状の主体である場合には、抗ロイコトリエン薬や鼻噴霧用ステロイド薬が使われます。鼻づまりが強い場合には、点鼻用血管収縮薬や経口ステロイド薬を使用することもあります。ステロイド薬の注射は、その副作用の問題から一般的ではありません。また、ステロイド点眼液を使用する場合には、眼圧の上昇に注意が必

要です。

手術療法の主な目的は、対症療法ではよくならない鼻づまりの改善です。鼻粘膜焼灼手術は鼻の粘膜をレーザーやラジオ波で焼いて、アレルギー反応をおこす場所を減らし、鼻づまり、くしゃみ、鼻水などの症状を軽減させます。ただし、花粉飛散の1カ月前までに手術をする必要があります。また花粉の季節を乗り切る一時的なものです。

花粉症の症状は、いったん強くなってしまうと薬で抑えるのが難しくなります。症状が少しでも出たときから薬を使うことで、症状を抑えることができます。最近の抗ヒスタミン薬は眠くなる副作用が軽減されています。点眼薬、鼻噴霧薬などの治療法を組み合わせることで、効果を上げることもできます。また、鼻づまりに効果の高い新しい内服薬も出ています。

治療を開始する目安としては、まだ症状が出ていなくても、「花粉の飛散が始まった」というニュースがあったときから薬を使い始めるのがよいでしょう。

花粉症の治療は症状や重症度によって効く薬は異なっていますから、医師とよく相談して、自分に合った治療法を選択するようにしてください。